

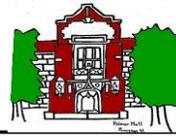
# な か ま

プリンストン日本語学校(補習校部)

平成24年度 No.03号

平成24年 4月22日

文責 長尾重範



## 新緑の爽やかな季節がやってきた！

落花踏む 花の意思をば 確かめつ

春こぶし 花も若葉も 実もこぶし

ある学級の風景です。夏ミカンの話で盛り上がっていました。それを見たことのある子はそのようすを話し、さらにははっきり説明できない言葉にであうと国語辞典で調べて教えてあげる子、帰国して体験入学したときの経験を話す子、そしてまんべんなくすべての子が学習に参加できるように心配りする先生。生き生きとした声が絶えませんでした。

その楽しさが、みんな同じであればいいのですが、よく見ると宿題をしている子と、そうではない子の表情に大きな差があるようでした。未来の学問の入り口に臨み夢ある子らが、宿題をやり切りわくわく日本語学校に通う姿を見ることは本当に嬉しいものです。宿題をしなくてもみんなに会うことは楽しいです。でも、もっと楽しくなる、わくわくするほうがいいですね。

## 漢字検定試験

6月17日に第1回の漢字検定試験が行われます。  
今日配布の申込書の締め切りは4月29日です。  
大いにこの機会を活用して、漢字学習に取り組みましょう。

「日本人は漢字が好き」

漢字は絵のようで覚えるのが苦手だという生徒の声は良く聞きます。文字形が複雑すぎるうえ、覚えるべき漢字の数が多すぎるという声も聞きます。アメリカにも英語のスペリングを競うコンテストがあるようですが、アルファベットの羅列に比べて、漢字の表現の方がずっと味わい深い気がするの私だけでしょうか。

仕方なしに覚えるためにあるのが漢字ではなくて、日本の人たちが長い年月をかけて楽しんできた日本の文化を表現する方法の一つが漢字なのです。愉しんで覚えそれを使って表現することで、漢字は日本で長く息づいてきたのです。面白いという感動があり多くの人々が使っているから、文化として絶えることなくつながっているのです。日本では高校入試の内申書に記載してもらえるので有利という受験動機はあるにしろ、感動が伴っているから広がります。漢字は、覚え使うだけではなく、それから編み出したひらがなやカタカナも使って白い紙に毛筆で表現するという芸術としての楽しみも併せ持っているのです。

## 行事予定表

4月29日	写真撮影、運動会係の打合せ会
5月6日	授業参観、懇談会
5月13日	授業参観、懇談会
5月20日	運動会予行練習
5月27日	運動会予行練習
6月3日	運動会

「ソクラテスのしびれえいの話」

有名なお話の一つ。

ソクラテスの知人が問うて言うには「あなたの周りにはたくさんの若者が話を聴きに集まり、あなたの影響は広がるばかりです。どうすればそのように若者を感動させられるのでしょうか」、ソクラテスが答えて言うには「シビレエイを知っているかな。シビレエイは自らしびれているから近づくものをしびれさせることができるのだよ。人間も同じだ。自ら感動する者のみが、印象深く教えることができるのだ」。

私たちの生活の中では、色々な感動があり、人生を左右する感動の出会いもあります。ある人の何気ない話が、聴く人にとって忘れがたい言葉となって、長く残る場合もあるでしょう。いずれの場合であれ、はじめに感動があってそれが周りに伝播していくものだと思います。授業でもソクラテスのようにありたいと思います。

45分間を一区切りとして学習する子どもたちにとっては、印象深く思い出せる内容が多いか、それともほとんど記憶に残っていないか、ときどきに一緒ではありません。先生が苦心して構成した授業だから学習者はよく記憶しているかという、そうばかりも言えないのが授業の難しいところです。しかし私は感覚的に、ソクラテスの例えが良く理解できます。感動し思い出深く学ぶということは、効率よく学ぶための最高の方法であると思われます。

**原稿募集** みなさんの作文をお寄せください。

原稿は体験的なもので400~800字であれば内容は問いません。身近な人の感動は新聞記事を読む場合とは異なって、深く読者に伝わると思います。よろしくお願ひします。

